

第39回

葛飾区産業フェアに行ってきました



工業・商業・観光展 編

伝統あるイベントです

都産振も後援している「葛飾区産業フェア」が開かれ、事務局でもその様子取材してきました。

今年度福井県で開催される「全国産業教育フェア」が第33回なのですが、この「葛飾区産業フェア」はそれより多い第39回を数えています。

10月20日～22日は「工業・商業・観光展」、27日～29日は「農業・伝統産業展」の2部構成で開催される大きなイベントです。

公式HPに掲載されている実行委員長挨拶には「葛飾の魅力を再認識する機会、また、お子さん達の産業教育の場となる様に『見て、触れて、学ぶ』工夫を凝らして、スタッフ一同皆様のご来場を心からお待ちしております。」とあり、東京都産業教育振興会の目的とも合致しているものです。



葛飾に根付いたイベントです

取材した日もお父さんやお母さんと一緒の子供たちから私たち事務局の先輩にあたる年齢層の方々が、ゆっくりとブースを見て回ったり、ものづくり体験をしたり、思い思いに楽しんでいる様子を見ると、地域にしっかりと根付いているイベントです。

都産振の会員も中心になって活動しています

はじめの写真は「工業・商業・観光展」が開催されていた21日(土)、入口付近の様子を示したものです。入口・出口に係員が立ち、落ち着いた雰囲気イベントであることを感じました。

入口でパンフレットをいただき中央の通路を歩きだすとすぐに、杉野ゴム工業所の杉野氏、カナック企画の金子氏、東京商工会議所葛飾支部の渋谷氏ら顔馴染みの方々が各々のブースで来場者への対応をしていました。



ものづくりは大人になっても楽しいものです

ものづくりが体験できるコーナーでは、子どもたちに交じって大人の方々も一緒に参加していました。安全に操作できる専用工具や手動で動く機械を使ってものづくりの楽しさを体験していました。



葛飾区ねじ連合会



かつしか異業種交流会



墨田・葛飾プレス安全協議会



葛飾ゴム工業会

会員校の生徒もスタッフです

葛飾区の専門高校も参加しています。取材した21日(土)は、都立本所工科高校と都立葛飾総合高校の2校を取材しました。本所工科高校の生徒たちは、マンツーマンでテーブルタップの製作をお手伝いしていました。学校での学びが地域とのつながりを通して生かされていることを実感したことと思われます。



今回の取材も、飯吉製作所の飯吉様にいろいろとお話を伺うことができました。ありがとうございました。

過去には、地域の産業フェアの先駆けとして、NHKの取材も受けたそうで、産業教育への思いが今日まで受け継がれていることの蓄積の重みを感じました。

葛飾区産業フェア



農業・伝統産業展 編

都産振も後援している「葛飾区産業フェア」、10月20日(金)～22日(日)の「工業・商業・観光展」の翌週、27日(金)～29日(日)は「農業・伝統産業展」のイベントが開催されました。事務局は初日の27日(金)に取材をしました。

葛飾に根付いたイベントです

右の写真のように小学生が先生に引率され、各展示スペースを見学していました。

金・土・日の3日間開催することで、地域の小学生が参加する機会ができています。土曜日に取材したときに見かけた小学生は、金曜日の見学がきっかけとなって、休日に親に連れてきてもらったのかもしれません。地域に根付くための、隠れた仕掛けなのでしょうか。



会場の様子



葛飾区に残る伝統産業、「江戸〇〇」と名付けられたような匠の技があちらこちらで披露されていました。

会員校は土日みの参加

都立葛飾商業高校は「小松菜せんべい」「小松菜ようかん」の販売、都立農産高校は「実習生産品の販売」「生徒作品の展示」を計画していましたが、金曜日のため残念ながら紹介はできませんでした。